

MICA モデムのステータスと接続解除の理由

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[モデム ステートの判別](#)

[切断理由の特定](#)

[モデム コールレコード](#)

[AAA アカウンティング ログ](#)

[show modem operational-status コマンドおよび show modem log コマンド](#)

[切断理由コードの形式](#)

[MICAモデムのステータス](#)

[MICA モデムの接続切断理由](#)

[切断理由：タイプ](#)

[関連情報](#)

概要

ここでは、Cisco Modem ISDN channel aggregation (MICA)モデムによって出力されるコールの切断理由コードについて詳しく説明します。

注: この資料は V.90、V.44、V.42bis および V.34 のような ITU 規格で定義される多くの用語が含まれています。これらの用語に関する詳細については適切な [ITU-T](#) 規格を参照して下さい。
[ITU-T 規格で規定される用語はこの資料で説明されません。](#)

前提条件

要件

このドキュメントを読む人は次に気づく必要があります:

MICA Domain Specific Parts (DSP)を使用するコールがクリアまたは切断されると、MICAにより切断理由が報告されます。これにより、正常に切断されたかどうかを判断できます。正常に切断されなかった場合には、切断理由から、考えられる障害を追跡できます。モデムは、クライアントの切断、回線エラー、NAS (ネットワークアクセスサーバ) のコール切断など、さまざまな要因によって切断されます。通常、接続の一端のDTE (クライアントモデムまたはNAS) がシャットダウンを要求すると、コールは切断されます。このような正常な切断の場合には、モデムエラーまたは伝送エラーが原因ではないことが示されます。[切断理由が正常かどうかを判断する方法については、汎用モデムおよび NAS 回線の品質の概要を参照してください。](#)

使用するコンポーネント

MICAモデムを使用するアクセスサーバは、次のとおりです。

- Cisco 3600 シリーズ ルータ
- AS5200
- AS5300
- AS5800

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

モデム ステートの判別

MICAモデムの現在のステートを判別するには、`show modem log slot/port` コマンドを使用します。ログ出力は、古いエントリから順番に表示されます。したがって、ログの最後のモデム ステート（変更）イベントが最新のMICAモデム ステートです。次の出力例では、00:00:28のModem Stateイベントに示されているように、最新ステートはアイドルです。[MICAモデム ステートの詳細については、MICAモデムステータスの表を参照してください。](#)

```
maui-nas-02#show modem log 1/0 Modem 1/0 Events Log: 00:03:33:Startup event:MICA Hex modem
(Managed) Modem firmware = 2.7.3.0 !--- This modem is using portware 2.7.3.0 00:03:33:RS232
event: noRTS, noDTR, CTS, noDCD ... !--- This output was removed for brevity. ...
00:00:28:Modem State event: State: Terminate 00:00:28:RS232 event: noRTS, DTR, CTS, noDCD
00:00:28:RS232 event: RTS, DTR, CTS, noDCD 00:00:28:Modem State event: State: Idle !--- The last
modem state event !--- This indicates that the modem is in state Idle
```

切断理由の特定

モデム接続が終了すると、NASにより2つの切断理由が報告されます。DTE（IOS）原因およびDCE（MICA）原因。これらの切断理由は、次の3つの方法によって確認できます。

1. モデム コール レコード：これらは IOS® ソフトウェアおよび MICAモデム切断の理由を両方報告します。
2. AAAアカウントリング ログ：IOSソフトウェアの切断理由だけが含まれています。
3. IOSコマンド：`show modem operational-status` コマンドおよび `show modem log` コマンドで、MICAモデムの切断理由を表示できます。

モデム コール レコード

モデムコールレコード（MCR）には、特定の接続に関するIOSとモデムの切断理由が表示されます。MCRは、各コールの終了中に、NASによってsyslogサーバに送信されます。モデムコールレコードがサポートされるのは、Cisco IOSソフトウェア リリース11.3AAおよび12.0T以降で、`modem call-record terse` コマンドを使用して（NAS上で）アクティブに設定します。[モデムコールレコードの使用方法的詳細は、Using Syslog, NTP, and Modem Call Records to Isolate and](#)

[Troubleshoot Faultsを参照してください。](#)

次のモデムコールレコードの例で、disc(radius)に示されているIOSの切断理由はLost Carrier/Lost Carrierです。また、disc(modem)に示されているモデムの切断理由は、次のとおりです。

```
A220 Rx (line to host) data flushing - not OK/EC condition - locally detected/received
DISC frame -- normal LAPM termination
```

[モデム切断理由の詳細については、MICAモデムの切断理由の表を参照してください。](#)

```
*May 31 18:11:09.558: %CALLRECORD-3-MICA_TERSE_CALL_REC: DS0 slot/contr/chan=2/0/18,
slot/port=1/29, call_id=378, userid=cisco, ip=0.0.0.0, calling=5205554099, called=4085553932,
std=V.90, prot=LAP-M, comp=V.42bis both, init-rx/tx b-rate=26400/41333, finl-rx/TX
brate=28800/41333, rbs=0, d-pad=6.0 dB, retr=1, sq=4, snr=29, rx/TX chars=93501/94046, bad=5,
rx/TX ec=1612/732, bad=0, time=337, finl-state=Steady, disc(radius)=Lost Carrier/Lost Carrier,
disc(modem)=A220 Rx (line to host) data flushing - not OK/EC condition - locally
detected/received DISC frame -- normal LAPM termination
```

[AAA アカウンティング ログ](#)

AAA アカウンティング ログでも、IOSの切断理由を判別できます。次のAAA sqlクエリの例には、radiusの切断理由が含まれています。

```
SQL> select * from cs_accounting_log where blob_data like '%rad_dial%';
```

```
LOG_ID BLOB_ORDINAL BLOB_DATA
-----
172.22.87.3 rad_dial Async20 65004 stop server=danvers time=17:36:33
date=04/17/2000 task_id=40 timezone=CST service=ppp protocol=ip
addr=172.22.83.12 disc-cause=4 disc-cause-ext=1021 pre-bytes-in=132 pre-bytes-out=139 pre-
paks-in=5 pre-paks-out=7 bytes_i
```

上記の例の切断コード(disc-cause=4)は、切断理由がIdle Time-outの時間切れであることを示しています。

注: AAAアカウンティング ログには、MICAの切断理由は表示されません。ここに記載されている表は、radiusの切断理由の説明ではありません。

0 - 基本パラメータが不十分 1 - 情報コンテンツの未定義または未提供 5 - ARQコンディションおよび信号不一致 6 - タイマのタイムアウト ... その他のシーケンス エラー クラス - 一部のクライアント機器に特定の未定義クラス

[show modem operational-status コマンドおよび show modem log コマンド](#)

IOSの show modem operational-status slot/port コマンドおよび show modem log slot/port コマンドを使用して、MICAモデムの切断理由を表示することができます。

これらのコマンドの出力には、接続が終了した理由、および現在の接続が正常に行われなかった理由が示されます。 [各種の切断タイプの詳細については、以降の切断理由の説明を参照してください。](#)

```
as5300-2#show modem operational-status 1/1 Modem(1/1) Operational-Status: Parameter #0
Disconnect Reason Info: (0xDF03) Type (=6 ): TX (host to line) data flushing - OK Class (=31):
Requested by host Reason (=3 ): DTR dropped ! --- This output was shortened for brevity.
```

show modem log slot/port はまた接続解除の原因を表示する

```
maui-nas-02#show modem log 1/0 Modem 1/0 Events Log: 00:03:33:Startup event:MICA Hex modem
```

```
(Managed) Modem firmware = 2.7.3.0 ... ! --- This output was removed for brevity. ...
00:00:26:End Connect event: Call Timer: 124 secs Disconnect Reason Info: (0x8220) Type (=4 ): Rx
(line to host) data flushing - OK Class (=2 ): EC condition - locally detected Reason (=32):
received DISC frame -- normal LAPM termination
```

切断理由コードの形式

切断理由は、4桁の16進数で表示されます。下位3桁の16進数が、切断理由を示しています。最上位の16進数は通常、切断理由のタイプ、または切断理由の発生状況を示します。これらのオプションについては[接続解除の原因](#)のセクションを参照してください: [型](#)。たとえば、切断理由コードが0xWXYZの場合、0xXYZが切断理由を示し、0xWが切断理由の発生状況を示しています。

上記の例では、0xF03および0x220 が切断理由を示し、0xDおよび0x8が切断理由の発生状況を示しています。 [MICA切断理由の定義については、MICAモデムの切断理由を参照してください。](#)

[MICAモデムの運用の詳細については、Cisco AS5x00 Case Study for Basic IP Modem Servicesに含まれているVerifying Modem PerformanceおよびModem Management Operationsを参照してください。](#)

MICAモデムのステータス

State	説明
IDLE (#0)	モデム セッションは現在、非アクティブです。 DSPから、すべての動作がシャットダウンされたという確認を受信すると、TERMINATINGステートがIDLEステートに変わります。
CALL_SETUP (#5)	モデムの信号プロセッサが、T1、multiple frequency (MF)、dual tone multi-frequency (DTMF)、R1、R2、およびコール プログレス信号を受信・生成できるよう準備中です。 モデムは、ホストから、LINK_TERMINATE、SOFTWARE_RESET、またはINITIATE_LINKメッセージを受信するまで、CALL_SETUPステートを維持します。
接続応答 (#10)	ホストから開始コマンドを受信すると、CALL_SETUP(#5) ステートがCONNECTステートに変わります。 着信モードでは、モデム セッションは開始されますが、アンサーバックトーンはまだ生成されていない状態です。 発信モードでは、モデム セッションは開始されますが、アンサーバックトーンはまだ検出されていない状態です。
LINK (#15)	アンサーバックトーンを検出するか (発信側)、またはアンサーバックトーンが生成されると (着信側)、CONNECTステートがLINKステートに変わります。 着信モードでは、モデム セッションにより、回線にアンサーバックトーンが送信されます。 発信モードでは、モデム セッションにより、最小限の (設定可能な) アンサーバックトーン

	<p>が検出されます。これによりリモートピアが確認されます。</p>
<p>QC (#16)</p>	<p>Quick Connect (QC)がイネーブルで、QCAシーケンスを受信するか (発信側)、またはQCAシーケンスを送信すると (着信モード)、LINKステートまたはV.8 bis ExchangeステートがQCステートに変わります。</p>
<p>トレインアップして下さい (#20)</p>	<p>モデム セッションが、リンクで使用する (設定済みの) 物理変調方式のネゴシエーションを実行中です。次の状況が発生すると、LINKステートがTRAINUPステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサーバック トーン終了の検出 (発信側) ・アンサーバック トーンの送信完了 (着信側)
<p>EC_NEGO TIATING (#25)</p>	<p>モデム セッションが、リンクで使用するエラー訂正およびデータ圧縮方式のネゴシエーションを実行中です。両モデムの設定が一致すると (両モデムに共通する性能および設定)、ネゴシエーションが正常に完了します。共通設定が見つからない場合、モデムは切断されるか、non-error connectedセッションを開始します。物理変調方式のネゴシエーションが正常に完了すると、TRAINUPステートがEC_NEGOTIATINGステートに変わります。</p>
<p>STEADY_ STATE (#30)</p>	<p>モデム セッションで、リンク上にデータを渡すことができます。次の状況が発生すると、EC_NEGOTIATINGステートがSTEADY_STATEステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (設定済みの) プロトコル ネゴシエーションが正常完了した場合 ・物理リンクの再ネゴシエーションが正常に完了した場合、STEADY_STATE_RETRAININGステートおよびSTEADY_STATE_SHIFTINGSPEEDステートから以降します。 ・ファックス モード; この状態は T30 エンジンが動作していることを意味します。Faxコール中に、STEADY_STATEステートとSTEADY_STATE_ESCAPEステートが切り替わります。これはファクシミリ (T30) セッションの異なるフェーズを通過するファックス コールを表します。
<p>STEADY_</p>	<p>モデム セッションがretrainingを実行中です</p>

STATE_RETRAINING (#35)	<p>。 次の状況が発生すると、STEADY_STATEステートまたはSTEADY_STATE_SHIFTINGSPEEDステートが、STEADY_STATE_RETRAININGステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Host Link_Control - [Retrain]コマンドの実行 • (設定可能な) 内部スレッシユホールドの超過
STEADY_STATE_SHIFTINGSPEED (#40)	<p>モデム セッションの速度変更中です。 次の状況が発生すると、STEADY_STATEステートがSTEADY_STATE_SHIFTINGSPEEDステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Host_Link_Control - [Fallback, Fall-Forward]コマンドの実行 • (設定可能な) 内部スレッシユホールドの超過
STEADY_STATE_ESCAPE (#45)	<p>モデムはまだリモートピアに接続していませんが、ホスト インターフェイスはATコマンド モードです。 このステートは、有効な Hayesエスケープシーケンスを受信すると開始されます。 Faxモードでは、T30エンジンがホストからATコマンドを受信していることを意味します。 Faxコールの情報は、STEADY_STATE (#30) ステートを参照してください。</p>
終端 (#50)	<p>モデム セッションが、ユーザ データの消去、およびDigital Signal Processor(DSP)のクリアダウンを実行中です。 Software_resetでは、逐次消去は行われずに、DSPがリセットされます。 次のいずれかの状況が発生すると、TERMINATEステートが開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LINK_TERMINATE、またはホストからのSoftware_reset • DSPからのキャリア損失 • DTEからのATHコマンドの受信 • 回線からのDISC/LD (disconnect)エラー訂正フレームの受信 • (設定可能な) 各種内部スレッシユホールドの超過
保留の状態 (#55)	<p>モデム セッションは保留中です。 データはリンクに渡されていません。 Modem on Hold (MoH)要求メッセージ(MHReq)を受信すると、STEADYステートがOn Holdステートに変わります。 modem on holdがイネーブルの場合(Register S62)、モデムは要求を許可し、無音またRTの検出時にアンサーバックトーン(ANSam)を送信するために、Modem on Hold Acknowledgment</p>

	<p>(MHack)シーケンスを送信します。 Call Menu (CM)信号(for V.8)またはQuick Connect Acknowledge-QCA (QC - Register S63)シーケンスが検出されると、モデムのOn-Holdステートは終了し、V.8またはQC (Register S63)勧告に基づいて、開始シーケンスに応答します。 On-Holdタイムアウトの時間内に開始シーケンスが検出されなかった場合には、On-Holdステートは終了し、接続が切断されます。 modem on holdがディセーブルの場合、モデムはMHnackを送信します。 MHnack送信後にMHcdaが検出されると、モデムは接続を切断します。 MHnack送信後にMHfrrが検出されると、モデムはアンサーバックトーンを送信し、リモートモデムからのCM (V.8)またはQCA (QC - Register S63) シーケンスを待ち受けます。 Modem On Hold に関する詳細については、ITU-T V.92 仕様を参照して下さい。 注: MICAステート#55は、以前はVOICEステートでしたが、ポートウェア バージョン 2.9.1.0以降 では削除されています。</p>
V.8bis EXCHANGE(#71)	<p>CReを検出するか(発信側)、またはCReを開始すると (着信側)、CONNECTステートから、このステートに変わります。 着信モード：モデムセッションは、回線にCapability Request-autoanswer (CRe)を送信中です。 発信モード：モデムセッションは Capability Request-autoanswer (CRe) を検出する。これはリモートピアがあることを示します。</p>
RANGING(#72)	<p>Round Trip Delay Estimate(RTDEd)が開始されると、LINKまたはQC (Register S63) ステートから、RANGINGステートに変わります。 このステートになるのは、V.32標準以上です。</p>
レンジング SHORT(#73)	<p>Round Trip Delay Estimate-Digital Modem (RTDEd)が開始されると、QC (Register S63)ステートからRANGING SHORTステートに変わります。</p>
HD TRAIN(#74)	<p>アダプト フィルタ トレーニングが開始されると、RANGINGまたはRANGING SHORTステートからHD TRAIN (Half Duplex Trainup)ステートに変わります。 このステートになるのは、V.22bis標準以上です。</p>
STEADY_STATE_PIAFS_RESYNC(#80)	<p>STEADY STATE PIAFS RESYNCステートは、Personal Handyphone Internet Access Forum Standard (PIAFS)コールが同期を失い、再同期化を実行していることを示します。</p>

STEADY_STATE_PIAFS_SPEEDSHIFT(#85)	STEADY_STATE_PIAFS_SPEEDSHIFTステートは、PIAFSコールが速度変更をネゴシエート中であることを示します。これは瞬間的な移行ステートです。MICAでこのステートが保持されることはありません。再同期化の結果、速度変更が行われると、MICAはSTEADY_STATE_PIAFS_RESYNCステートからこのステートに変わり、さらにSTEADY_STATEステートになります。再同期化の結果、速度変更が行われなかった場合は、再同期化の完了後、STEADY_STATE_PIAFS_RESYNCステートから直接、STEADY_STATEステートになります。
------------------------------------	---

MICA モデムの接続切断理由

MICAモデムの切断理由は、4桁の16進数で表示されます。下位3桁の16進数は、特定の切断理由を示します。最上位の16進数は、切断理由のタイプ、または切断理由の発生状況を示します。接続解除コードが16進法0xDF03である上述の例では、0xF03は接続解除の原因があったときに0xDが示す間、接続解除の原因を特定します ([接続解除の原因: タイプ](#))

以下に示す切断理由には、切断タイプは含まれていません。そのため、表示された切断理由の最も左側の16進数を除き、残りの3桁について、下記の表の説明を参照してください。前述の例では、0xF03を参照します。

注: この資料では、ホストモデムはCisco Access ServerのMICAモデム、クライアントモデムはリモートデバイスのモデム(クライアントPCモデムなど)です。

切断タイプ	切断理由コード	説明
-	0	切断は発生していません。ポートウェアのロード直後、またはコール実行中にSTEADYステートになる前に切断理由を照会すると、このコードが表示されます。
一般的な切断理由(クラス0)		
2	0x001	Cisco IOSが何らかの理由により、突然コールを終了しました。たとえば、コールが送受信されている物理リンク上でレイヤ1がダウンした場合などです。
2	0x002	Error Correction (EC)レイヤによる終了
2	0x00	Microcom Network Protocol 5 (MNP5) 圧縮解凍タスクが、データストリームで不正トークンを

	3	受信しました。この切断理由はデータモードで発生します(0x3003)。通常は、モデム、または相手側の圧縮解凍/エラー訂正のいずれかで、論理エラーが発生しています。(偶発的な回線ヒットまたはRAMメモリエラーの可能性もあります)
2, 4, 6	0x004	V.42bis または V.44 圧縮解凍タスクが、データストリームで不正トークンを受信しました。この切断理由は、データモードで発生します(0x4004)。通常は、モデム、または相手側の圧縮解凍/エラー訂正のいずれかで、論理エラーが発生しています。(偶発的な回線ヒットまたはRAMメモリエラーの可能性もあります) V.44の場合は、このコードに、診断リンク情報フィールドインデックス119(デバッグツールとして使用される8バイト情報フィールド)が付加されます。
2	0x005	MICA ソフトウェア エラー この切断理由のエラーコードは 0x4005です。不正なコプロセッサステート変数を示すMICAソフトウェアエラーが発生しています。
6	0x006	Ath コマンドはローカルモデムによって検出する。この接続解除の原因はデータモードの間にあります(0xC006 および 0xE006)。ローカルモデム(MICA)が、ATH(Hangup)コマンドを検出しました。たとえば、IOSからダイヤルアウトしたコールが接続された後で、IOS DTEインターフェイスがインバンドATHコマンドによりコールを取り消した場合などです。
3	0x007	AT dial コマンドは打ち切られました。AT dial コマンドは any key abort コマンドによって打ち切られました。たとえば、ホストのモデムがコールを発信します。接続確立の間に、定常状態前に、キーを押すにより打ち切られる AT dial コマンドを引き起こします。
3	0x008	コール接続完了の時間制限超過。ことにこの接続解除のために切れる S7 タイマー(ダイヤルの後のキャリアのための待機) 注目して下さい。この切断理由は、コールセットアップ中に発生します(0x6008)。ホストモデムの retraining により、接続確立に時間がかかりすぎています。原因は次のとおりです: レイヤ1規格のネゴシエーションが困難であること(たとえば、切断理由 0x6102から回復する前にコールが中断された場合)、またはレイヤ1とレイヤ2の組み合わせにより接続確立に時間がかかること。たとえば、エラー訂正のネゴシエーションに retraining 以上の時間がかかったり、クライアントモデムがアグレッシブレート(クライアントモデムのレシーバがサポート不可能な速度)で接続を試み、ビットエラーが発生した場合です。この切断タイプは、CSRとしてカウントされます。この切断は、着信モデムがチャンネルからのトーンを検出できな

		い (発信側がモデムではない) 場合にも実行されます。
2	0x009	DSP はリセットされました (コマンド、内部または自発)。この接続解除の原因でエラーコードは 0x4009 です。Control Processor (CP) またはSignal Processor (SP) により、ホスト モデム内のDSP がリセットされました。CPは、CPからSPへのメール メッセージに対して確認応答が戻されない場合、DSPをリセットします。SPは、内部不整合エラーが発生すると、自動的にリセットされます。
4、6	0x00A	不正なセットアップコードワードの受信。により C2 (現在のコードワードサイズ) の値は N1 (最大コードワードサイズを超過したときにSTEPUPコードネームの受信を明示します:) V.44 だけおよび V.42bis のために有効ネゴシエートされ。
4、6	0x00B	不正な V.42bis コードワードの受信。コードワードの受信を、いつでも、等号 C1 (次の空の辞書エントリ) に明示し、V.42bis のために有効です。 (コードワード = C1 の受信は V.42bis で不正、V.44 で可能であり) ではない。
4、6	0x00C	V.44 または V.42bis の不正なトークンの受信 (余りに大きい)。これは受け取った V.42bis が V.44 コードワードサイズがネゴシエーションされた最高値を超過したことを意味します。常に C1(次の空のディクショナリ エントリ)以上であるコードワードを受信したことを意味します。この切断理由は、V.44およびV.42bisに適用されます。
4、6	0x00D	V.44 または V.42bis 予約されたコマンドモードの受信。予約されたコマンドモードの受信を明示し、V.44 および V.42bis のために有効です。
4、6	0x00E	V.42bisまたはV.44が、次の空のディクショナリ エントリより大きいコードワードを受信しました。V.44不正STEPUPキャラクタを受信しました。C5値 (序数サイズ) が8を超えるSETUP制御コードを受信したことを意味します。この切断理由は、V.44だけに適用されます。
4、6	0x00F	十分の V.44 Rx 辞書。Rx node-tree が完全なとき辞書のリセットではないコードワードの受信を明示します。V.44 だけのための有効な。
4、6	0x010	十分の V.44 Rx 履歴。Rx 履歴が完全なとき辞書のリセットではないコードワードの受信を明示します。V.44 だけのための有効な。
4、6	0x011	超過する V.44/V.42bis 不正な Rx ストリングサイズ。最大によってネゴシエートされるストリングサイズを超過しますコードワードの受信を明示します。この切断理由は、V.44およびV.42bisに適用されます。

4 、 6	0x 01 2	V.44ネゴシエーション エラーV.44ネゴシエーション エラーが発生しました。 V.44 に関しては、このコードは診断リンク情報 フィールド インデックス 119 によって補足されます。 診断リンク情報フィールドインデックスは、デバッグ ツールとして使用される8バイト情報フィールドです。
4 、 6	0x 01 3	V.44圧縮エラーV.44圧縮エラーが発生しました。 V.44 に関しては、このコードは診断リンク情報 フィールド インデックス 119 によって補足されます。 診断リンク情報フィールドインデックスは、デバッグ ツールとして使用される8バイト情報フィールドです。

DSPコンディション レポート (クラス1)

	0x 1x x	SPE により報告された DSP コンディション
3 、 4 、 5	0x 10 0	DSPがキャリア信号を損失しました。 MICAがクライアント モデムのキャリア廃棄を検出しました。 この切断理由は、コール セットアップ中およびデータモードで発生します (0x6100、0x8100、および0xA100)。 MICA DSPのキャリア検出が停止してから、Register S10 (キャリア損失後の切断遅延)に指定された値以上の時間が経過しました。 伝送パスが使用不可であるか、クライアントが送信を停止したことを意味します。 レイヤ2プロトコル (V.42およびV.42bis) が有効な場合、これは異常な切断です。 この切断理由は、ECネゴシエーション中 (データモードになる前) に発生することもあります。 レイヤ1のネゴシエーションが正常終了した後 (キャリア信号の検出後)、レイヤ2プロトコル (V.42およびV.42bis) の確立中に切断される場合です。 一般的には、接続が確立される前にユーザがコールを中断することが原因です。 誤ってダイヤルしたり、開始後に取り消したり、 (レイヤ1ネゴシエーションで何度も retraining が行われ) 接続するまでに時間がかかりすぎてクライアント アプリケーションがタイムアウトした場合も、コールは切断されます。 これらの障害は、CSRとしてカウントされます。 正常なデータモードでも、クライアントが突然キャリアをドロップすれば、キャリア損失が発生します。 一般的には、ネゴシエーションに失敗したり、クライアント モデム側で不正な切断 (クライアント モデムが単純にキャリアをドロップする) が行われることが原因です。 リンクが突然ドロップされ (ネットワークエラー)、クライアント モデムの電源がシャットオフされた場合もコールは切断されます。 また、DTRドロップについてレイヤ1およびレイヤ2のクリアダウン プロトコルがサポートされない安価なクライアント モデムでも、キャリア損

		<p>失が発生します。ただし、クライアント モデムが多数ある場合には、正常な切断とみなされています。クライアント モデムが不正切断を行った場合、0xA103、0xA100、および0xDF06の間のいずれかのコードが使用されます。ホストモデムのDSPがキャリア損失を検出した場合には、0xA100が優先され、切断理由になります。</p> <p><u>DSPがキャリア損失を検出せず、Register S40 制限まで retraining が行われた場合には、0xA103が優先されます。</u> ネットワークがコール切断を検出し、ルータに切断を通知した場合には、0xDF06が優先されます。この切断理由は、ホストモデムがデータモードの場合には、CSRとしてカウントされません。</p>
3	0x101	<p>コール障害の発生時に、Signal Processor (SP)が Answer Back Tone (ABT)検出フェーズだった場合、この切断理由が発生します。</p>
3	0x102	<p>互換性のないモジュレーションが悪い行が原因での上のモデムトレインの間の接続失敗。この接続解除の原因はコール setup(0x6102)の間にあります。旧Rockwell独自変調 (K56Plus、V.F.C.) など、サポートされない変調方式のネゴシエーションを試みたことが原因です。また、回線不良、インパルスノイズ、トレーニング中断、変調パラメータの不一致、レイヤ1標準を正しく選択できないなどの要因による DSPトレインアップ障害も原因として考えられます。この切断タイプは、CSRとしてカウントされます。</p>
4、5	0x103	<p>retraining または速度変更の連続試行回数が多すぎます。retraining の制限値は、Register S40 で指定します。この切断理由は、コールセットアップ中およびデータモードで発生します (0x6103、0x8103、および0xA103)。コール進行中の retraining の回数が多すぎると、データレートが低下して、コールが無効になります。(接続途中でのTelco回線業者によるコールドロップなどにより) クライアント モデムがクリアダウンプロトコルを完了できなかったり、MICAが retraining によりコール回復を試みたことが原因です。 <u>retraining の制限値に達すると (制限値 Register S40で変更可能)、MICAはコールをドロップし、この切断理由を報告します。</u> ある状況下では (チャネライズド T1/e1) 接続解除のこの型は正常な定常接続解除とみなされるかもしれませんが。代わりに、これは MICA が回復できない可能性のある line エラーによるダーティ ディスコネクションの結果単にである可能性があります。コールは確立済みなので、この切断タイプはCSRとしてカウントされません。クライアントモデムが高い初期接続レートを要求し、コールを維持できない場合 (旧USRoboticsクライアントモデムなど) には、ECネゴシエーション中</p>

		<p>にこの切断理由が発生します。この切断タイプは、CSRとしてカウントされません。クライアント モデムが不正切断を行った場合、0xA103、0xA100、および0xDF06の間のいずれかのコードが使用されます。ホストモデムのDSPがキャリア損失を検出した場合には、0xA100が優先され、切断理由になります。<u>DSPがキャリア損失を検出せず、Register S40 制限まで retraining が行われた場合には、0xA103が優先されます。</u>ネットワークがコール切断を検出し、ルータに切断を通知した場合には、0xDF06が優先されます。この切断理由は、ホスト モデムがデータモードの場合には、CSRとしてカウントされません。</p>
3	0x104	<p>アンサーバック トーン (ABT) の終了を検知。V.34 トレーニング中のネゴシエーション障害または超過ノイズ。ホスト モデムが応答し、V.8bis および位相反転を伴う変調 2100 Hz アンサーバック トーン (ABT) が送出されましたが、トレインアップ シーケンス中に超過ノイズが発生しました。発信モデムから着信モデムまでの一方向または両方向のパスにエラーが発生していないか確認してください。ダイヤルアップの PSTN (公衆交換電話網) に 1 秒以上の遅延があり、モデムがエコークャンセラをトレインアップできない場合も、同様の状態になります。その他、次のような原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実Txパワーレベルが不正で、リモート側でトーンが処理されない • V.34 トレーニング中に Phase III および IV で過度のノイズが発生した • オペレータ エラー • V.34 トレーニング中のネットワーク妨害 (他の内線電話の使用など) <p>この切断タイプは、CSRとしてカウントされます。</p>
3	0x105	<p>SS7/COT (連続性テスト) オペレーションはコールセットアップ (0x6105) の間に正常にこの接続解除の原因が発生します完了しました。SS7/COT (持続テスト) が正常に完了しました。</p>
3	0x106	<p>SS7/COT (持続テスト) が失敗しました。トーンを待っている T8/T24 タイムアウト。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します (0x6106)。トーン オンの待機中にT8/T24タイムアウトが発生したため、SS7/COT (持続テスト) に失敗しました。</p>
3	0x107	<p>SS7/COT (持続テスト) が失敗しました。トーンを待っている T8/T24 タイムアウト。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します (0x6107)。トーン オフの待機中にT8/T24タイムアウトが発生したため、SS7/COT (持続テスト) に失敗しました。</p>

4	0x 10 8	MICAによるModem On Hold (MOH)クリアダウン。 クライアント モデムからのModem On Hold Cleardown要求を受信しました。 V.92 に定義さ れているクリアダウン理由は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・着信コールによるクリアダウン ・発信コールによるクリアダウン ・その他の理由によるクリアダウン
4	0x 10 9	Modem On Hold (MOH)タイムアウトの発生
ローカルECコンディション(クラス2)		
	0x 2x x	ローカルECコンディション
3	0x 20 1	ネゴシエーション中にLR (Link Request)フレーム を受信しませんでした。 この切断理由は、コ ール セットアップ中に発生します(0x6201)。 エラ ー訂正のネゴシエーション中に、ホスト モデム がLRフレームをまったく受信しなかったことを 意味します。 ピア モデムがV.42のMNPをサポート していない可能性があります。
3	0x 20 2	不正パラメータ(PARAM1)のLRフレームを受信し ました。 受信したMNP Link Request (LR)フレ ームに不正または予期せぬPARAM1が含まれていま した。 PARAM1 の詳細は、 V.42 仕様を参照して ください。
3	0x 20 3	互換性のないLR (Link Request)フレームを受信し ました。 この切断理由は、コール セットアップ 中に発生します(0x6203)。 受信した MNP LR フ レームは、ホスト モデムの EC 設定と一致しませ ん。
4 、 5	0x 20 4	連続再送信が多すぎます。 この切断理由は、コ ール セットアップ中およびデータモードで発生 します(0x8204、0xA204、および0x6204)。 原因 として回線上のノイズが考えられます。 たとえ ば、ホスト モデムからクライアント モデムに送 信されたデータが、回線上のノイズにより、ク ライアント側で不正に受信されたり、まったく受 信されない場合です。 そのため、ノイズ過多によ り、再送信回数が増加します。 クライアント モ デムの切断を、MICAモデムが認識していない場 合も、この切断理由が発生します。 クライアン ト モデムの切断後も、ホスト モデムは再送信を 続行するからです。 また、コールがエラー圧縮 (EC)プロトコル(Link Access Procedure for Modems [LAPM]またはMicrocom Networking Protocol[MNP])で接続された場合、MICA はク ライアント側のモデムにフレームを送信するこ とができません。 クライアント モデムはMICAの初 回送信に応答できず、S19 (Error Correction Retransmission Limit)ポール (デフォルトは

		<p>12) に失敗するので、MICAはコールを切断します。原因として、伝送パスのキャリア品質が低下しても、クライアントがダウンシフトしていないことが考えられます。クライアントの EC エンジンに問題があることもあります (Windows の応答停止時に Winmodem システムで発生)。</p>
6、7	0x205	<p>無動作タイムアウトにより、MNP Link Disconnect (LD) が送信されました。この切断理由は、データモードで発生します(0xC205および0xE205)。ホストモデムからクライアントモデムに無動作タイムアウトの発生を示すLDフレームが送信されました。</p>
4、5	0x206	<p>EC プロトコル エラー この切断理由は、データモードで発生します(0x8206および0xA206)。一般的なプロトコル エラーです。LAPM または MNP EC プロトコル エラーが発生したことを意味します。</p>
3	0x210	<p>EC フォールバックプロトコルを使用できません。この切断理由は、コールセットアップ中に発生します(0x6210)。エラー訂正ネゴシエーションに失敗しました。エラー訂正フォールバックプロトコルを使用できないので、コールは終了します。S-register S25 (リンクプロトコルフォールバック) が使用可能なフォールバックプロトコルを判断します。オプションは、非同期フレーミング、同期フレーミング、および切断 (ハングアップ) です。</p>
3	0x211	<p>ネゴシエーション中に eXchange IDentification (XID) フレームを受信しませんでした。この切断理由は、コールセットアップ中に発生します(0x6211)。エラー訂正ネゴシエーション中に、ホストモデムがXIDフレームをまったく受信しなかったことを意味します。クライアントモデムが V.42 の LAPM をサポートしていない可能性があります。</p>
3	0x212	<p>ローカル設定と一致しない XID フレームを受信しました。この切断理由は、コールセットアップ中に発生します(0x6212)。受信したXIDフレームが、ホストモデムの設定と一致しません。たとえば、クライアントモデムが MNP5を指定したとき、ホストモデムがV.42およびV.42bisのみをサポートしている場合などです。</p>
3、4、5	0x220	<p>Disconnect (DISC) フレームを受信。これは正常な LAP-M 切断です。この切断理由は、コールセットアップ中およびデータモードで発生します (0x 6220、0x8220、および0xA220)。クライアントからの適正なクリアダウンにより、コールが正常に終了されました。(すなわち、V.42 接続解除 パケットはクライアント側のモデムから NAS モデムに送信されました)。クライアントモデムは DTR を廃棄し、クリアダウンプロトコル</p>

		を正常にネゴシエートしました。
3、4、5	0x221	受信した DM フレーム。ピアが切断されている可能性があります。この切断理由は、コールセットアップ中およびデータモードで発生します (0x6221、0x8221、および0xA221)。クライアント モデムが切断中であることを示しています。コールセットアップ中に、クライアント モデムがエラー訂正ネゴシエーションを放棄したことを意味します。
4、5	0x222	不正シーケンス番号を受信 この切断理由は、データモードで発生します (0x8222および0xA222)。ホスト モデムが、不正なシーケンス番号または確認応答番号の LAPM または MNP エラー訂正フレームを受信しました。ホスト モデムの切断中を示す LD または Frame Reject (FRMR) フレームが、クライアント モデムに送信されます。
4、5	0x223	STEADYステートでSABMEフレームを受信 この切断理由は、データモードで発生します (0x8223および0xA223)。STEADY ステートでの LAPM エラー訂正プロトコルのエラーを示します。Frame Reject (FRMR)の受信により、クライアント モデムがリセットされた可能性があることを意味します。
4、5	0x224	STEADY ステートで MNP XID フレームを受信 この切断理由は、データモードで発生します (0x8224および0xA224)。STEADY ステートでの LAPM エラー訂正プロトコルのエラーを示します。Frame Reject (FRMR)の受信により、クライアント モデムがリセットされた可能性があることを意味します。
4、5	0x225	STEADY ステートで MNP LR フレームを受信しました。この切断理由は、データモードで発生します(0x8225および0xA225)。STEADY ステートでの MNP エラー訂正プロトコルのエラーを示します。クライアント モデムがリセットされたことを意味します。
PIAFSプロトコル特定コンディション (クラス2、続き)		
3、4	0x230	定義されたメッセージ最小長よりも短いメッセージを受信しました。
3、4	0x231	未知の、またはサポートできないPIAFSフレームタイプを受信しました。これには、FI (主要フレームタイプ)、およびネゴシエート、同期、または制御クラス(サブタイプ)が含まれます。
3、4	0x232	PIAFS Control Frame Identifier (CFI)が未知です。未知の、またはサポートできないクラスIDの制御フレームを受信しました。連続フレームおよびユーザフレームはサポートされず、既知の通知フレームは存在しないことに注意してください。

3, 4	0x233	PIAFS Communicationのネゴシエーションに失敗しました。初期同期の後で、通信パラメータReq/Ack帯は交換されます。どちらかパラメータは受け入れられなかったです、または発信側はNAK（否定応答）応答を検出する。 注: MICAはテスト目的のクライアントまたはイニシエータとしてのみ動作します。
3, 4	0x234	PIAFS ARQのネゴシエーションに失敗しました。再同期の後で、ARQ要求（Req）/Acknowledgment（Ack）帯は交換されます。どちらかパラメータは受け入れられなかったです、または発信側はNak応答を検出する。 注: MICAはテスト目的のクライアントまたはイニシエータとしてのみ動作します。
3, 4	0x235	PIAFS Control Transfer Protocolの問題が検出されました。イニシエータが、ID、Class、およびSequenceが元のReq/Ntfと一致していないAck/Nak/Rspを受信しました。 注: MICAはテスト目的のクライアントまたはイニシエータとしてのみ動作します。
3, 4	0x236	この切断理由は、DataLinkRelease要求フレームの受信を意味するものではありません。切断理由なく、切断されたことを意味します。MICAはコールを切断中ですが、切断理由が検出されていません。
3, 4	0x237	PIAFS sync reception wait timer T001のタイムアウトです。このタイマは、sync-requestフレームが送信されると開始され、sync-receptionフレームが検出されると停止します。このエラーが発生するのは、MICAポートがクライアントまたはイニシエータとして動作している場合、すなわちテスト中だけです。デフォルト値は15秒です。
3, 4	0x238	PIAFS post-sync reception-transmission timer T002のタイムアウトです。このタイマは、sync-receptionフレームが送信されると開始され、sync-reception（コリジョン）または制御フレームが検出されると停止します。このエラーが発生するのは、MICAポートがクライアントまたはイニシエータとして動作している場合、すなわちテスト中だけです。デフォルト値は15秒です。
3, 4	0x239	PIAFS sync request wait timer T003のタイムアウトです。このタイマは、連続FCSエラーが検出されると開始され、有効なsync-requestフレームが検出されると停止します。このエラーが発生するのは、MICAポートがサーバ（応答モード）として動作している、標準動作モードの場合です。デフォルト値は15秒です。
3, 4	0x23A	PIAFS timer T101 expired: 制御フレーム確認待機タイマー。このタイマは、制御フレーム要求/通知が送信されると開始され、フレームが確認されると停止します。このエラーが発生するのは、

		MICAポートがクライアントまたはイニシエータとして動作している場合、すなわちテスト中だけです。デフォルト値は10秒です。
3, 4	0x23B	PIAFS: PIAFS : ネゴシエート範囲外のFBI (ACK sequence #)、または空でないデータフレームのあるFBI=0を受信しました。
3, 4	0x23C	PIAFS: ネゴシエート範囲外のFFI (MSG sequence #)、またはFFI=0を受信しました。
3, 4	0x23D	PIAFS: ネゴシエートされた Data ウィンドウは RTF (ラウンドトリップ遅延) 値より小さいです。 Portwareはこのエラーをポストしないので、このエラーが表示されることはありません。
3, 4	0x23E	PIAFS: メッセージのデータ長フィールドは余りに大きいです。適正範囲は0-73です。
3, 4	0x23F	PIAFS内部エラー。SREJコールによりエラーコードが戻されました。
3, 4	0x240	PIAFS一般プロトコルエラー。関連する切断理由のない一般的なエラーです。
3, 4	0x241	PIAFS: プロトコルネゴシエーションは失敗しました。両ステーションで、どのプロトコル (Data Transfer Protocol Fixed Speed、DTP Variable Speed Type1) も一致しませんでした。DTP Variable Speed Type3、またはReal Time Protocolはサポートされません。
3, 4	0x242	PIAFS: PIAFS : 測定されたRTF(往復遅延)値が、定義 (許容) 範囲を超えています。
3, 4	0x243	PIAFS内部エラー。イベントハンドラに未知のイベントがあります。スイッチステートメントはデフォルト値に戻ります。
3, 4	0x244	PIAFS 2.1速度変更中に、Signal Processor (SP)応答タイムアウトが発生しました。MICAのCPが、200ミリ秒以内に速度変更応答を受信しませんでした。
3, 4	0x245	MICAのCPが、CP/SP共有制御ストラクチャで矛盾する制御情報を検出しました。データバッファの前後に、データバッファ境界(0-63)を超えるオフセットが設定されている場合などです。
相手からの不正MNP/LAPMプロトコル コマンドの受信 (クラス3)		
4, 5	0x3xx	EC が不正コマンドコードを検出しました。下位2桁が、受信した未知コマンドです。応答として、MNP LDまたはLAP-M Frame Reject (FRMR)フレームが送信されます。
LAPM 相手側からのMICAプロトコル エラーの指示 (クラ		

ス4)		
4 、 5	0x 4x x	LAP-M FRMR フレームにより、クライアントから EC コンディションが指示されました。下位 2 桁が理由を示しています。
4 、 5	0x 40 1	LAPM：ピアから不正コマンドが報告されました。ホスト モデムがクライアント モデムから FRMR フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムがホスト モデムから受信したエラー訂正フレームに、許可されないデータフィールド、または不正長 (U フレーム) のデータフィールドが含まれていたことが報告されました。
4 、 5	0x 40 3	LAPM：ピアから、許可できない、または不正長 (U フレーム) のデータフィールドが報告されました。ホスト モデムがクライアント モデムから FRMR フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムがホスト モデムから受信したエラー訂正フレームに、許可されないデータフィールド、または不正長 (U フレーム) のデータフィールドが含まれていたことが報告されました。
4 、 5	0x 40 4	LAPM：ピアから、Frame Check Sequence (FCS) は正常で、N401 (V.42 の最大情報フィールド長) を超えているデータフィールド長が報告されました。NextPort モデムがクライアント モデムから FRMR フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムが NextPort から受信したエラー訂正フレームに、最大オクテット数を超えているため、I フレーム、SREJ フレーム、XID フレーム、UI フレーム、または TEST フレームの情報フィールド (N401) で伝送できないデータフィールドが含まれていたことが報告されました。ただし、フレーム チェックシーケンスは正常です。
4 、 5	0x 40 8	LAPM：ピアから、不正受信シーケンス番号または N(R)が報告されました。ホスト モデムがクライアント モデムから FRMR フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムがホスト モデムから受信したエラー訂正フレームに、不正な受信シーケンス番号が含まれていたことが報告されました。
MNP相手側からの切断またはMICAプロトコル エラーの指示(クラス5)		
4 、 5	0x 5x x	MNP LD フレームにより、クライアントから EC コンディションが指示されました。下位2桁が理由を示しています。
3	0x 50 1	MNP：ピアが LR フレームを受信しませんでした。ホスト モデムがクライアント モデムから LD フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムがホスト モデムからリンク要求をまったく受信していないことが報告されました

		。
3	0x502	MNP：ピアレポートLRフレームに悪いパラメータ #1 があります。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムがホストモデムから受信したリンク要求 (LR) フレームに不正な (予期せぬ) PARAM1が含まれていたことが報告されました。PARAM1の詳細は、V.42仕様を参照してください。
3	0x503	MNP：ピアから、設定と一致しないLRフレームが報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムがホストモデムから受信したLRフレームが、クライアントモデムの設定と一致していないことが報告されました。
4、5	0x504	MNP：ピアから、連続EC再送信回数の超過が報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムが受信したホストモデムからの連続再送信が多すぎることを報告されました。
4、5	0x505	MNP：ピアから、無動作タイマのタイムアウトが報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。受信されたLDフレームはことをクライアント側のモデム示しますか。sホスト (DTE) hasnか。tはある一定の時間以内のクライアント側のモデムにデータを渡しました。
3	0x506	MNP：ピアからエラーが報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムがMNPプロトコルエラーを受信したことが報告されました。
3	0x5FF	正常なMNP切断 ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。受信されたLDフレームはクライアント側のモデムのDTRが廃棄するか、または+++かAthコマンドを受け取ったことを示す正常なMNP終了を示します。この切断理由は、コールセットアップ中およびデータモードで発生します(0x65FF、0x85FF、および0xA5FF)。ホストモデムが正常終了を示すLDを受信しました。クライアントからの適正なクリアダウン (クライアントモデムからホストモデムへの切断パケットの送信など) により、コールは正常に終了しました。クライアントモデムはDTRを廃棄し、クリアダウンプロトコルを正常にネゴシエートしました。
PIAFS相手側からの切断またはMICAプロトコルエラーの指示(クラス6)		
3、4	0x6x	MICAが、PIAFS DataLinkRelease (PDLR)を受信しました。下位2桁xxが理由を示しています (詳

	x	細は下記を参照)。
3, 4	0x 61 x	PIAFS DataLinkRelease (PDLR)の正常クラス : 0 - 正常リリース 1 - 正常リリース, データリンクの継続は禁止 2 - 正常リリース、データリンクは継続 ...他の正常なクラス-いくつかのクライアントデバイスに独特な未定義のクラス。
3, 4	0x 62 x	PIAFS DLRリソース使用不能クラス(ビジー状態) : 8 - DTEビジー 9 - 一時的な障害 ...他の資源利用可能性のあるクラス-いくつかのクライアントデバイスに独特な未定義のクラス。
3, 4	0x 63 x	PIAFS DLRサービス利用不能クラス (不正パラメータ) 9 - 要求パラメータ設定不能 A -可能な限り現在設定する要求パラメーター。 .. その他のサービス利用不能クラス - 一部のクライアント機器に特定の未定義クラス
3, 4	0x 64 x	PIAFS DLRサービス未提供クラス 1 - パラメータ未提供 ...その他のサービスまだ提供されたクラス-いくつかのクライアントデバイスに独特な未定義のクラス。
3, 4	0x 65 x	PIAFS DLR情報コンテンツ無効クラス 8 -終了属性の不一致 ...他の無効な情報 コンテンツ クラス-いくつかのクライアントデバイスに独特な未定義のクラス。
3, 4	0x 66 x	PIAFS DLR 0 に対する順序の誤りクラス-不十分な不可欠なパラメータ。 1 - 情報コンテンツの未定義または未提供 5 - ARQコンディションおよび信号不一致 6 - タイマのタイムアウト ...他の順序の誤りクラス-いくつかのクライアントデバイスに独特な未定義のクラス。
3, 4	0x 67 x	その他のPIAFS DLR特定クラス 1 - 音声コール中 ...いくつかのクライアントデバイスに独特な他の独特なクラス未定義のクラス。
ホスト/IOSによる切断要求(クラス31)		
6 、 7	0x 1fx x	ホストが切断を開始しました。値は、0x1F00 と SessionStopCommand 値の合計です。ホストの終了理由を示します。下位2桁xxがホストの理由を示しています。
3 、 6 、 7	0x 1f 00	ホストによる一般的な切断開始。値は、0x1F00 と SessionStopCommand 値の合計です。IOSにより開始された一般的な切断理由です。すべての非標準切断に使用されます。たとえば、モデム管理ソフトウェアの判断でコールが終了した場合などです。RADIUS、TACACS、またはホストモデムに DTR ドロップを発行する他のアプリケーションの高水準認証障害が考えられます。このタイプの切断は、ホスト モデムがデータモードの場合には、CSR としてカウントされません。
3	0x 1f	ダイヤルした番号がビジーでした。ホストより、ダイヤル番号がビジーであることが示され、コ

	01	ールが切断されました。
3	0x 1f 02	ダイヤルした番号が応答しませんでした。ホストにより、ダイヤル番号から応答がないことが示され、コールが切断されました。
3、6、7	0x 1f 03	仮想DTRがドロップされました。これは、現在モデムを使用しているI/Oポートリダイレクタのステータスです。ホストが仮想DTR回線をドロップしたため、コールが切断されました。Cisco IOS ソフトウェアにより開始される一般的な切断の理由です。アイドルタイムアウト、PPP LCP TERMREQ受信、認証の失敗、Telnet切断などの原因が考えられます。切断理由を特定するには、modem call-record terseコマンドまたは Authentication, Authorization, and Accounting (AAA)のRadius切断理由を調べてください。
6、7	0x 1f 04	ローカルホストにより、ATH (ハンガアップ)コマンドが検出されました。
3	0x 1f 05	Telco ネットワークにアクセスできません。ホストがネットワーク(ISDN)にアクセスできなかったため、コールが切断されました。
3、4、5、	0x 1f 06	ネットワークにより切断が通知されました。この切断理由は、データモードに変わる前、またはデータモード中に発生します。0x1f06は、IOSが回線ネットワークから回線切断信号(Q.931切断信号またはCASオンフック信号)を受信し、IOSからMICAに切断が指示されたことを意味します。MICAがデータモードに変わった時点でECプロトコル(LAPMまたはMNP4)がネゴシエートされていなかった場合、これは正常な切断です。この状況は、コールがSTEADYステートになる前のトレインアップ中に、Windows 95/98 Dial Up Networking (DUN)のユーザがコールを中止した場合に発生します。また、クライアント側で電話回線プラグが取り外されたり、モデムの電源が切断された場合にも発生しますが、これらも正常な切断とみなされます。ただし、EC (LAPMまたはMNP4)のネゴシエーションが完了してからデータモードに変わった場合、この切断理由は不正(正常なコール終了ではない)とみなされます。クライアントのDTE(データモード)がコールを正常終了(DTRドロップまたは+++ / ATH)した場合、クライアントモデムはオンフックの前にLAPM DISC (またはMNP LD)を送信するので、切断理由は0x1f06ではなく0x220になるからです。したがって、この切断理由が発生した場合は、クライアントモデムが何らかの理由でキャリアを伝送できないなど、モデム側の不備が原因であると考えられます。
3	0x 1f	NAS が SS7/COT を終了しました。NAS の SS7/COT (持続テスト) 終了による切断です。

	07	
3	0x1f08	T8/T24 のタイムアウトにより、ルータが SS7/COT を終了しました。
-	0x1ff	非要請。 終端。 ホストが非送信請求の終了メッセージを受信した場合、この切断理由が発生します。

切断理由：タイプ

切断原因: コール切断の発生状況を示すものです。それらは2つの主なタイプに分類することができます: の間のコールセットアップとデータモード (定常 状態)。次の表に、最も一般的な切断理由のタイプと、切断理由コードの値を示します。

切断タイプ	切断理由コード (16進数)	説明
0	0x0...	(未使用)
1	0x2...	(未使用)
2	0x4...	その他の状況
3	0x6...	コール セットアップ中に発生
4	0x8...	データ モードで、良くフラッシュする Rx (ホストするべき行) データ。データモードで発生した切断です。MICAは受信データをホスト (IOS) に転送しようとしています。いくつかの切断に関しては (たとえば、PIAFS)、これは使用される唯一のデータモード型です; データ送信がOKかどうかは示されません。
5	0xA...	データ モードで、良くないフラッシュしない Rx (ホストするべき行) データ。データモードで発生した切断です。MICAは受信データをホスト (IOS) に転送しようとしています。旧MICAコードでは、これはタイプ4以上に相当します。IOSはこの切断を正常ではないと判断しますが、実際には問題はありません。
6	0xC...	データ モードで、良くフラッシュする TX (行へのホスト) データ。データモードで発生した切断です。MICAは、バッファされているホスト (IOS) データを相手側モデムに転送しようとしています。
7	0xE...	データ モードで、良くないフラッシュしない TX (行へのホスト) データ。データモードで発生した切断です。

		MICAは、バッファされているホスト (IOS) データを相手側モデムに転送しようとしています。旧MICAコードでは、これはタイプ6以上に相当します。IOSはこの切断を正常ではないと判断しますが、実際には問題はありません。
--	--	---

[関連情報](#)

- [MICA AT コマンド セット](#)
- [PIAFS と設定 される MICA AT コマンド](#)
- [MICAポートウェア リリース ノート](#)
- [NextPort AT コマンドおよび S レジスタ参照](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)